

**2018 年度
一般社団法人 CIEC 定時社員総会**

議 案 書

**2018 年 8 月 25 日(土)
熊本大学黒髪キャンパス
(〒860-8555 熊本市黒髪 2 丁目 39 番 1 号)**

【2018 年度一般社団法人 CIEC 定時社員総会 議案】

第 1 号議案. 2017 年度事業報告と 2018 年度事業計画承認の件	1
第 2 号議案. 2017 年度決算承認の件	
・財政報告	3
・貸借対照表	5
・損益計算書	6
・計算書類の注記表	7
・附属明細書	8
・監査報告書	9
第 3 号議案. 2017 年度収支差額処分承認の件	10
第 4 号議案. 2018 年度予算承認の件	11
第 5 号議案. CIEC 役員選挙実施の件	14

【資料】

資料 1. 2017 年度活動報告と 2018 年度活動方針	15
・専門委員会	
・部会	
・支部	
・WG	
資料 2. CIEC 活動報告	26

2018年度一般社団法人CIEC定時社員総会議案書
議案1. 2017年度事業報告と2018年度事業計画承認の件

1996年7月に設立されたCIECは、2013年6月から一般社団法人CIECとして、設立以来の目的を引き継ぎながらこの5年間活動してきました。本議案では、2017年度の事業報告と2018年度の事業計画を提案いたします。

個々の専門委員会部会等の活動報告は、それぞれの委員会や部会報告等にゆだね、ここでは全体に関わる2017年度の取り組みの要点と2018年度事業方針について記します。

1. 学び、教育の革新をすすめる社会づくりへの発信

CIECは2013年6月に一般社団法人CIEC設立総会を開催し、一般社団法人として活動を続けてまいりました。ここ数年の学校教育を取り巻く環境の変化は大きく、高等教育の無償化、大幅な大学入試改革などの議論が本格化しています。また、指導要領改訂に伴い、プログラミング教育の必修化、語学教育における4技能評価の導入などが予定されており、ICTを利用した教育の更なる充実が必要となってきました。大学入試改革も本格化しており、Japan e-Portfolio の設立など新たな動きもみられます。

今こそ、CIECが長年取り組んできたICT利用教育に関わる成果を社会に発信し、その評価を受けながらさらに発展させていく時期に来ていると考えられます。そこで本年度は、委員会、部会、支部の連携をさらに強化し、活動を活発化させていきたいと考えています。そのことにより、ICT利用教育に関わる情報交換・情報発信の場としてのCIECの魅力を多くの教育関係者にアピールし、個人・団体会員の増加を目指します。

2. PCカンファレンスをより一層充実した学びあいの場へ

「2017PCカンファレンス」は、2017年8月5日、6日、7日に慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)で全国大学生協連との共催のもと812名の参加で開催されました。全体テーマは「創造する学びーアクティブ・ラーニング2.0」です。「今回のPCCでは、相互行為・役割設定・状況規定と制度設計そして学びの本源的価値、それらすべてにおいて既存のスタイルが変容する多様な可能性を、ワークショップなどの実践を通して、みなさんと一緒になって思考する新しいスタイルを導入しました。

今回は全く新たな試みとして、プレカンファレンス「対話ワークショップ」、会員参加型ワークショップ「ラーニングスタジオ」を実施しました。さらに、セミナー、イブニングセッション(交流型・ワークショップ型)が開催されました。分科会では125本(口頭96本、ポスター29本)の発表がありました。

「2018PCカンファレンス」は熊本大学にて8月24日、25日、26日に開催されます。全体テーマは「ひらめきときめき はばたき」です。今年は「AI時代において人間とは何か、人の学びとは何か」を考え、様々な学びにおいて、また人との出会いや交流での「ひらめき」、それを実現し、社会が変わっていくことを想像して「ときめき」、それをモチベーションとして様々なことに挑戦して「はばたき」を人にしかできないこと、人ならではのことでありテーマに取り上げました(開催概要より一部転載)。

3. みんなが参加できる、成果を共有できる、専門委員会/部会/支部/WGの活動の広がり

専門委員会、研究委員会、会誌編集委員会、広報・ウェブ委員会、国際活動委員会の4つが理事会のもとに置かれています。研究委員会は、自らCIEC研究会の企画実施を担当するとともに、部会等が開催する研究会の調整・管理を行います。2017年度は、CIEC春季研究会2018が実施され、「CIEC研究会報告集Vol.9」を刊行しました。会誌編集委員会は、会誌『コンピュータ&エデュケーション』の編集を担当し43号と44号を刊行しました。広報・ウェブ委員会は刷新されたCIECのホームページを通して様々な情報発信を行いました。国際活動委員会は、国際活動の企画・運営を担当し、研究会の開催等を通じて引き続き情報提供をすすめています。

部会は、会員の自発的組織化として始まり、小中高部会、外国語教育研究部会、生協職員部会が研究活動を展開しています。小中高部会は関東、関西、北海道の3地区に拠点を拡大して活動をすすめる、PCカンファレンスでセミナーを企画開催するとともに、CIEC研究会を4回実施しました。外国語教育

研究部会は学習会を2回実施しました。生協職員部会は、学生の大学生協の場を通じた学びに焦点を当てPCカンファレンスでセミナーを企画開催しました。

支部はCIECの地域組織で、各地域での会員の自主的活動の場として位置づけられます。現在、支部は北海道と九州の2つが活動しております。北海道支部では、10月にPCカンファレンス北海道(室蘭工業大学)を開催しました。九州支部は、10月に九州PCカンファレンス(北九州市立大学)を開催しました。本年度11月には、PCカンファレンス(北翔大学)の開催を予定しております。

2016年度から新たに設置されたMERLOT WGは東京と大阪でのワークショップ開催をはじめ、PCカンファレンスでのシンポジウムの企画、ワークショップの企画運営を行いました。MERLOT WGは、2018年度からはより活動の幅を広げるために、「オープン・エデュケーション部会」として活動することになります。最後に、外国語教育研究部会は2018年度から休会として、今後の活動の在り方を検討した上で再開または廃止とすることになりました。

4. 個人会員の拡充を図り、団体会員との新たな関係の構築に向けて

個人会員は本年度755名(2018年4月)となりました。個人会員が1000名規模に達するよう、引き続き個人会員の「参加」の場を広げていくとともに、PCカンファレンスや研究会などへの未会員の参加を促進し会員拡大に努めます。

また団体会員は団体84(2018年4月)であり、関係の強化については、今後新たな共同のキャンペーンや研究プロジェクトの創設など、団体会員とのコラボレーションを追求します。

5. 広報、出版活動と「学会情報」の公開、発信にむけて

会誌への論文投稿も安定的に集まっており、編集委員会によって査読制度も確実に運営されており、年2回の会誌発行を順調にすすめてきました。最新号を除く会誌はJSTAGEで公開されており、最新号も発行の6か月後には公開されます。なお、第46号からは投稿区分の変更が予定されています。

また、ニューズレターについては完全Web化して会員への情報提供をすすめています。CIECホームページも内容の更新を実施しています。新ホームページにおいては、今まで以上に各委員会、部会、支部からの情報発信が容易になっています。

6. 財政基盤の確立、事務局体制と役員選挙のあり方

近年、団体会員の退会が続いており、一般会員数も頭打ちの状態となっております。引き続き、更なる収入増対策を検討する必要があります。個人会員、団体会員の拡大、政府や企業等との共同研究の推進などで収入増対策をすすめるとともに、経費対策をすすめます。社員総会、役員選挙については引き続き電子投票制度を利用することにより経費削減を図ります。役員交通費の削減にも取り組みたいと考えております。

CIECの活動収支については厳密な運用管理と定期的会計報告と監査を受け、経費の透明性を確保し、税務当局への報告も明確にしています。

日常的なCIEC活動をすすめるために事務局は、副会長の中から事務局長を選出し、多くの事務を担当しました。2018年度においても引き続き現行の体制を維持し、法人としての事務局活動を進めます。

以上

CIEC2017 年度財政報告

〔概況〕

2017 年度決算は赤字となりました。予算案では経常収益と経常費用を同額にする予定でしたが経常利益 22 万円の損失となりました。

事業費用、管理費用は予算比、昨年比とも支出を押さえましたが、会費収入が予定より伸び悩み赤字となりました。

(文中の金額は原則として千円以下切り捨て、詳しくは損益計算書をご覧ください)

〔経常損益の部〕

I. 〔経常収益〕

1. 会費収益 1,138 万円／予算 1,210 万円

- ・ 個人会員会費収入は 410 万円で予算対比 30 万円の減 (-7.0%)、団体会員会費収入は 728 万円で予算対比 42 万円の減 (-5%) となりました。

<会員状況>	2017 年 4 月 1 日	2018 年 3 月 31 日	2018 年 4 月 1 日
個人会員	766	807	755
団体会員	85	88	84

2. 財務収益 896 円／予算 2 千円

- ・ 受取利息 896 円

II. 〔経常費用〕

1. 事業費用 766 万円／予算 791 万円

(1) 会議費用 259 万円／予算 235 万円

- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の年 2 回の予定でしたが、カテゴリ変更のための臨時委員会を 5 月に開催し、その分の交通費が超過しました。
- ・ WG(MERLOT)はハンズオンワークショップを東京・大阪で開催、PCC 北海道にも派遣した分が超過しました。

(2) 会誌発行費用 281 万円／予算 250 万円

- ・ Vol. 43, Vol. 44 を発行しました。投稿が多くページ数が増えたため費用が超過しました。

(3) 広報費用 9 万円／予算 20 万円

- ・ 2016 年度活動紹介パネルを作成しました。
- ・ CIEC ウェブサイトの Special 記事の費用を支出しました。

(4) 研究会費用 48 万円／予算 63 万円

- ・ 地域 PCC 派遣・支援費用では、北海道 PCC に副会長が参加して交流を深めました。
- ・ 2017 年度は春季研究会及び第 113 回, 114 回, 115 回, 116 回の研究会を開催しました。
- ・ 春季研究会では CIEC 研究会報告集 vol. 9 を発行しました。発行費 16 万円に対し主に参加者が購入する報告集販売収入が 5 万円で差額 11 万円は CIEC 負担となっております。

(5) 調査費 5 万円／予算 5 万円

- ・ 北海道支部により教科「情報」の調査が行われ、その結果は PCC 北海道で発表されたほか、協力各大学で有効活用されています。

(6) 事業活動費用 24 万円／予算 51 万円

- ・ 三役会議費，電子証明書費用です。JMOC 協賛会員の年会費は今期脱退のため費用発生しておりません。

(7) 支部活動援助金 60 万円／予算 61 万円

- ・ 北海道支部 25 万円および九州支部 35 万円の実績です。支部からは支部交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(8) 部会活動援助金 79 万円／予算 95 万円

- ・ 外国語教育研究部会 29 万円，小中高部会 48 万円，生協職員部会 2 万円の実績です。3 部会からは部会交付金の支給基準に沿って「活動報告・会計報告」が提出されました。

(9) 学会表彰事業費 0 万円／予算 10 万円

- ・ 2017 年度は対象がありませんでした。

2. 管理費用 393 万円／予算 419 万円

(1) ネットワーク運営費 11 万円／予算 10 万円

- ・ 保守管理業者委託費，サーバー更新料，ドメイン名登録更新料(お名前.COM/日本レジストリーサービス)の費用です。

(2) 事務局通信費 19 万円／予算 25 万円

(3) 事務局業務委託費 300 万円／予算 300 万円

(4) 事務用品費 31 万円／予算 38 万円

(5) 備品購入費 0 円／予算 10 万円

(6) 管理委託費 10 万円／予算 20 万円

- ・ 会計システム費用，会計顧問料で，10 万円です。

(7) 雑費 23 万円／予算 15 万円

- ・ 個人情報取扱事業者保険料，書籍 JAN コード更新料，振込や自動引き落としなどの各種手数料が主です。

(8) 予備費 0 円／予算 1 万円

(9) 租税公課 0 円／予算 2 千円

〔経常外損益の部〕

III. 〔経常外収益〕

・ 雑収入 6 万円／予算 0 円

- 印税，会誌売上および春季研究会参加費です。

IV. 〔法人税等〕

7 万円／予算 7 万円

- ・ 法人住民税 7 万円を納めました。

V. 〔当期利益金〕

7 万円の赤字予算に対し 23 万円の赤字となりました。

以上

計 算 書 類

第1 貸借対照表

貸 借 対 照 表
2018年6月30日現在

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	19,378,565	流動負債	7,327,583
現金及び預金	19,338,881	未払金	101,583
未収金	39,684	前受金	7,226,000
		負債合計	7,327,583
		(純資産の部)	
		その他	12,050,982
		正味財産	12,050,982
		繰越利益剰余金	12,050,982
		純資産合計	12,050,982
資産合計	19,378,565	負債・純資産合計	19,378,565

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」
(2013年1月25日 経済団体連絡会) に準拠して作成しています。

第2 損益計算書

損 益 計 算 書

(自2017年7月1日 至2018年6月30日)

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,098,000	
2) 団体会員会費収入	7,280,000	
	11,378,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	896	
	896	11,378,896
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,587,970	
2) 会誌発行費用	2,828,451	
3) 広報費用	84,560	
4) 研究会費用	486,958	
5) 調査費用	49,200	
6) 事業活動費用	235,622	
7) 支部活動援助金	597,373	
8) 部会活動援助金	791,543	
	7,661,677	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	107,902	
2) 事務局通信費	185,447	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	310,929	
5) 管理委託費	101,540	
6) 雑費	233,571	
	3,939,389	11,601,066
経常損失金		222,170
(経常外損益の部)		
III 経常外収益		
1 雑収入	60,528	60,528
IV 税引前当期損失金		161,642
V 法人税等	70,000	70,000
VI 当期損失金		231,642

注) この表は、「一般社団法人・財団法人法施行規則による一般社団法人の各種書類のひな型」(2013年1月25日 経済団体連絡会)に準拠して作成しています。

第 3 計算書類の注記表

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

①計算書類及びその附属明細書の作成基準

一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して作成しています。

②資産の評価基準及び評価方法

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 損益計算書に関する注記

(1) 法人税等は当期の法人住民税が含まれております。

3. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、運転資金はすべて自己資金でまかっています。

未収金は、回収期間は1年以内です。

未払金は、事業に係る費用の支払であり、1ヶ月後に支払うものです。

前受金は、次年度の会費です。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

2018年6月30日における貸借対照表計算額、時価及びこれらの差額は次のとおりです。(時価の算定方法については(注1)を参照)。また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

(単位：円)

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
①現金預金	19,338,881	19,338,881	-
資産計	19,338,881	19,338,881	-
③前受金	7,226,000	7,226,000	-
負債計	7,226,000	7,226,000	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

①現金及び預金

預金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

②前受金

前受金はすべて短期であるため、時価は帳簿価格と近似していることから当該帳簿価額によっています。

附属明細書（計算書類関係）

主な資産および負債の明細

(1) 現金預金 (単位：円)

内 訳		金 額
現金		401,019
当座預金	ゆうちょ銀行	4,203,288
普通預金	りそな銀行	2,617,013
普通預金	中央労働金庫	2,117,561
定期預金	中央労働金庫	10,000,000
合 計		19,338,881

(2) 前受金

内 訳		金 額
次年度個人会員会費		6,206,000
次年度団体会員会費		1,020,000
合 計		7,226,000

2018年7月21日

監査報告

一般社団法人 CIEC（コンピューター知用教育学会）
会長理事 熊坂 賢次 様

監事 板倉 隆夫

監事 若林 靖永

監事 佐藤 和之



第6期事業年度の事業報告、計算書類及び附属明細書、その他理事の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

監事間の協議により、監査方針を定めた上で、各監事は調査を行い、監査を実施しました。

具体的には、理事会に出席し、会計帳簿、会計書類、理事会議事録、重要な決裁文書及び報告書を閲覧しました。

2. 監査の結果

- 1) 事業報告は法令及び定款に従い当法人の状況を正しく表示しています。
- 2) 理事の職務の執行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- 3) 当法人の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての理事会の議決の内容は相当です。
- 4) 計算書類とその附属明細書は当法人の財産および損益の状況を全ての重要な点において適正に表示しています。

3. 追記情報

ありません。

以上

第3号議案 2017年度収支差額処分承認の件

2017年度利益金処分案

I 当期末処分利益金	<u>12,050,982 円</u>
II 次年度繰越利益金	<u>12,050,982 円</u>

上記のとおり、2017年度利益金は次年度へ繰り越すことを提案いたします。

一般社団法人 C I E C (コンピュータ利用教育学会)

会 長 理 事 熊 坂 賢 次

2018年度予算計画

I. [経常収益について] 1,210万円

1. 会費収益 総額 1,210万円

- ・ 個人会員会費収入は 440 万円の計画とし、会員の新規加入を促進します。昨年実績に加え、一般会員ベースで 50 名の追加を目指します。
- ・ 団体会員会費収入は 770 万円の計画として、団体会員の新規加入を推進します。昨年実績に加え、団体会費 14 口増を目指します。
- ・ PC カンファレンスや研究会などを通じて会員獲得を目指します。
- ・ 会員獲得について計画化と組織的取り組みを図ります。

2. 財務収益

- ・ 受取利息で 2 千円を計上します。

II. [経常費用について] 1,210万円

1. 事業費用 総額 779万円

1) 会議費用 225万円

- ・ 総会費用は、20 万円を計上します。
- ・ 理事会は、12 月、3 月、6 月の 3 回分 110 万円を計上し、機関会議の軸とします。
- ・ 広報・ウェブ委員会は 30 万円を計上します。各委員会、部会、支部の WEB 担当者の会議参加を呼びかけます。
- ・ 研究委員会は 20 万円を計上します。
- ・ 国際活動委員会は 10 万円を計上します。
- ・ 会誌編集委員会は 10 月、3 月開催の 2 回分 35 万円を計上します。

2) 会誌発行費用 250万円

- ・ 12 月の 45 号、6 月の 46 号発行を計画します（取材・送料込）。
- ・ JSTAGE への投稿デジタルデータ作成費用 5 万円を計上します。

3) 広報費用 15万円

- ・ リーフレット発行費用として 1 万円、2017 年度活動紹介のパネル作成費用として 5 万円を計上します。
- ・ HP 構築運用費として 10 万円を計上します。

4) 研究会費用 総額では 60 万円（研究会 50 万円）

- ・ 研究会費用を 50 万円計上します。
- ・ 研究会報告集費用は 10 万円を計上します。

5) 調査費用 5万円

- ・ 北海道支部の教科「情報」調査のための費用を 5 万円計上します。

6) 事業活動費用 42万円

- ・ 三役会議は、4 回開催とし、30 万円計上します。
- ・ 諸会費等は、2 万円を計上します。
- ・ 事業委託費は 10 万円を計上します。

7) 支部活動援助金 61万円

- ・ 支部活動を保障する予算を 61 万円計上します。北海道支部 25 万円、九州支部 36 万円です。支部では地域を単位とした事業（地域 PCC、研究会など）を展開し CIEC 会員の参加の「場」を広げます。

8) 部会活動援助金 110万円

- ・ 部会規約に基づき、定めた基準を満たす部会への援助金を 110 万円計上します。小中高部会 60 万円、

オープン・エデュケーション部会 35 万円、生協職員部会 15 万円です。

9) 学会表彰事業費用 10 万円

10) 教育出版費用 1 万円

11) 周年事業費用 0 万円
・ 今期は計上いたしません。

2. 管理費用 総額 431 万円

1) ネットワーク運営費 15 万円
・ サーバ更新料など。

2) 事務局通信費 25 万円

3) 事務局業務委託費 300 万円

4) 事務用品費 38 万円

5) 備品購入費 10 万円

6) 管理委託費 20 万円
・ 法人会計の税務顧問料およびシステム運用費用として 20 万円を計上します。

7) 雑費 22 万円
・ 振込，自動引き落とし，各種発行手数料などの費用として 22 万円を計上します。

8) 予備費 1 万円

9) 租税公課 2 千円

以上

一般社団法人CIEC 2018年度予算案

(単位：円)

科 目	金 額	
(経常損益の部)		
I 経常収益		
1 会費収益		
1) 個人会員会費収入	4,400,000	
2) 団体会員会費収入	7,700,000	
	12,100,000	
2 財務収益		
1) 受取利息	2,000	
	2,000	12,102,000
II 経常費用		
1 事業費用		
1) 会議費用	2,250,000	
2) 会誌発行費用	2,500,000	
3) 広報費用	150,000	
4) 研究会費用	600,000	
5) 調査費用	50,000	
6) 事業活動費用	420,000	
7) 支部活動援助金	610,000	
8) 部会活動援助金	1,100,000	
9) 学会表彰事業費用	100,000	
10) 教育出版費用	10,000	
11) 周年事業費用	0	
	7,790,000	
2 管理費用		
1) ネットワーク運営費	150,000	
2) 事務局通信費	250,000	
3) 事務局業務委託費	3,000,000	
4) 事務用品費	380,000	
5) 備品購入費	100,000	
6) 管理委託費	200,000	
7) 雑費	220,000	
8) 予備費	10,000	
9) 租税公課	2,000	
	4,312,000	12,102,000
3 財務費用	0	
1) 支払利息	0	
経常損失金		0

議案5. CIEC役員選挙実施の件

CIEC役員選挙規約に基づき2018年度・2019年度(2018年度社員総会から2020年度社員総会まで)の役員選挙を実施しました。結果を選挙管理委員会から報告します。

個人会員の理事
団体会員の理事
監事

資料1：専門委員会、部会、支部、WG2017年度活動報告と2018年度活動方針

※敬称略にて作成しております。

会誌編集委員会

1. 2017年度活動報告

(1) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」43号（2017.12.1）の発行

- ・INTERVIEW 「子どもたちの可能性のある未来のために-『教育』と『ICT』をつなぐイノベーターとして」川居睦さん（チエル株式会社代表取締役社長）に聞く／横川博一
- ・特集「学習への動機づけとICT利用教育」：4本／特集担当編集委員：籠谷和弘
- ・CIEC20周年記念シンポジウム報告
- ・2017PCカンファレンス報告「創造する学び—アクティブ・ラーニング2.—」
- ・事例研究：4本
- ・論文：2本
- ・ソフトウェアレビュー：2本
- ・報告：1本
- ・本の紹介

※参考：一般投稿（特集、私の意見、報告、本の紹介を除く）13本（採択：10本、不採択：3本）

(2) 会誌「コンピュータ&エデュケーション」44号（2018.6.1）の発行

- ・INTERVIEW 「数理・データサイエンス教育のゆくえ」齋藤政彦さん（神戸大学副学長／数理・データサイエンスセンター長）に聞く／横川博一
- ・特集「ITでアーカイブと教育は変わる」：4本／特集担当編集委員：浅野純一
- ・事例研究：5本
- ・論文：4本
- ・ソフトウェアレビュー：2本
- ・報告：1本
- ・本の紹介

※参考：一般投稿（特集、報告、本の紹介を除く）17本（採択：11本、不採択：6本）

(3) 会誌編集委員会を、以下の日程（会場）で開催しました。

第70回：2017年8月15日（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス）、第71回：2017年10月14日（生協会館）、第72回：2018年3月18日（生協会館）、第73回：2018年5月13日（生協会館）

(4) 2017PCカンファレンスで会誌編集委員会企画セミナー『「コンピュータ&エデュケーション」をより良くするために—研究と論文の質向上を目指して—』を開催しました／パネリスト：中村泰之、浅野純一、武沢護、片平昌幸

2. 2018年活動方針

(1) 会誌『コンピュータ&エデュケーション』45号および46号を刊行します。昨年度に引き続き『コンピュータ&エデュケーション』の内容をさらに充実させることを目指します。また、「本の紹介」については、従来と同様に理事会メンバーの積極的な投稿をお願いします。

(2) 会誌のさらなる質向上を図るため、投稿要領および査読の体制とスケジュールの見直しについて検討します。また、下記3の通り、会誌投稿規定の改正を行い、会誌第46号（2019年6月刊行予定）から施行する予定です。

(3) 巻頭インタビューについては、これまでと同様にCIEC団体会員を中心として対談相手を選定すると同時に、団体会員外企業にも積極的にインタビューを依頼し、CIECへの理解を深めることを目指します。また、各種ソフトウェア・システムを有効に活用している実績のある個人についても、インタビューの対象としていきます。

(4) 会誌編集委員会を年3回程度開催する予定です。

(5) 団体会員の協力の下、会誌編集委員会主催もしくは他部会と研究会の共催について検討します。

(6) 学会賞選考委員会に編集委員会として協力します。

(7) 2018PCカンファレンスにおいても、昨年度に引き続き、会誌編集委員会企画セミナー『「コンピュータ&エデュケーション」をより良くするために』を開催します。

3. 会誌投稿規定の改正案

- ・改正のポイント：投稿される論文等の多様化に対応し、会誌のさらなる質向上を図ることを目的として、論文等の種別を「研究論文」・「実践論文」および「研究ノート」・「実践報告」に再編するとともに、それぞれの種別の内容を明確にします。
- ・本改正案が承認された後、学会ウェブサイト等を通じて広報・周知を図り、会誌第46号（2019年6月刊

行予定) から本規定を適用します。

改訂案 (2018年8月改正)	現行版 (2014年6月1日改正)
<p>本誌は、とくにコンピュータやネットワークを活用した教育・研究に関する<u>理論的・実践的</u>な原稿を歓迎します。</p> <p>原稿の種類と刷り上がりページ数は下記のとおりです。投稿する場合には原稿の種類をご指定下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>研究論文・実践論文</u> コンピュータやネットワークを活用した教育・研究に関する<u>理論的・実践的研究</u> 図表を入れて6ページ以内 ・ <u>研究ノート・実践報告</u> 図表を入れて4ページ以内 ・ <u>ソフトウェアレビュー</u> 図表を入れて2ページ以内 <u>自作のものを含む公開されたソフトウェアについて、その機能、特徴および教育・学習への有用性を会員に広く紹介することを目的としたもの</u> ・ 本の紹介 (デジタル媒体含む) 1葉の写真および500字以内の紹介文 ・ 私の意見 2ページ以内 <p>上記1ページの基本組は、25字×45行×2段組です。これには、図表スペース、章見出し、注、参考文献、<u>研究論文・実践論文、研究ノート・実践報告</u>の著者紹介なども含まれます。</p>	<p>本誌は、とくにコンピュータやネットワークを活用した教育・研究に関する<u>実践的具体的</u>な原稿を歓迎します。</p> <p>原稿の種類と刷り上がりページ数は下記のようになっています。投稿する場合には原稿の種類をご指定下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>論文および事例研究</u> 図表を入れて刷り上がり6ページ以内 ・ <u>ソフトウェアレビュー</u> 図表を入れて刷り上がり4ページ以内 ・ 本の紹介 (デジタル媒体含む) 1葉の写真および500字以内の紹介文 ・ 私の意見 刷り上がり2ページ以内 <p>上記刷り上がり1ページの基本組は、25字×45行×2段組です。これには、図表スペース、章見出し、注、参考文献、論文と活用事例の著者紹介なども含まれます。</p>

広報・ウェブ委員会

1. 2017年度活動報告

広報・ウェブ委員会は、CIECの広報全般、特にウェブサイトの運営等に取り組み、会員への情報提供、社会への発信等を強めることを目的に活動しています。2017年度は、当初に定めた3つ活動方針に従って、以下の通り活動しました。

(1) PCカンファレンスのアーカイブ化

PCカンファレンスにおける主な刊行物は、事前に各会員宛に郵送される「リーフレット」、受付時に手渡される「大会プログラム」、そして特設サイト (http://gakkai.univcoop.or.jp/pcc/20**/) に公開される「論文集」があります。2007年以降の各年度のPCカンファレンスの刊行物を1つのPDFファイルにまとめた『PCカンファレンス論文集20**』として編集しました。2018年5月末現在、論文集の編集は完了し、学会サイト (<https://www.ciec.or.jp/pcc/>) での公開準備中です。

(2) 委員会・部会・支部の自律的な投稿促進

PCカンファレンス2017開催中の8月6日(日)14:00-15:00、慶應義塾大学SFC内において、各委員会・部

会・支部のウェブ担当者を集めた会合の機会を持ち、現状の課題を共有しました。その会合以降、同ウェブ担当者には本委員会のグループウェアにも加わってもらい、サイトの問題点などに即座に対応できる体制を整えました。また、委員会の開催時にはオブザーバーとしての参加も呼びかけ、連携を強化しています。

(3) 独自コンテンツ Special 記事の定期更新

Special 記事がより多くの CIEC 会員の目に留まり、サイトへの導線ともなるように、記事公開時には CIEC ニュースとしても配信する試みを開始しました。掲載内容は、会員にとって関心の高い「学会表彰-受賞者喜びの声-」や、PCC2017 にて初めて実施された「ラーニングスタジオ」の Review 記事などを掲載しました。また、団体会員へのサービス強化として、製品紹介を含む独自インタビュー記事を複数本掲載しました。

(4) その他

- ・サイトの SSL 化を行いました。
- ・会誌一覧 (https://www.ciec.or.jp/ce_nl/cmp_edu.html) において、従来は「目次」のみの掲載でしたが、「巻頭インタビュー」「抄録」「ソフトウェアレビュー」も掲載できるように仕様変更を行いました。
- ・委員会の会合は以下の 3 回行いました。

2017 年度第 1 回広報・ウェブ委員会

- 日時： 2017 年 8 月 5 日（土）14:00-15:00
会場： 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス
議題 1. アクセスログ解析の報告
2. PC カンファレンスのアーカイブ化について
3. Special 記事の公開スケジュールについて
4. ウェブ担当者会合について 他

2017 年度第 2 回広報・ウェブ委員会

- 日時： 2018 年 3 月 25 日（日）11:00-12:30
会場： 大学生協杉並会館
議題 1. アクセスログ解析の報告
2. PC カンファレンスのアーカイブ化について
3. 公式 SNS の開設について
4. SSL 化やドメインの継続について
5. Special 記事の公開スケジュールについて 他

2017 年度第 3 回広報・ウェブ委員会

- 日時： 2018 年 6 月 17 日（日）10:00-12:00
会場： 大学生協渋谷会議室
議題 1. アクセスログ解析の報告
2. PC カンファレンスのアーカイブ化について
3. 公式 SNS の開設について
4. Special 記事の公開スケジュールについて 他

2. 2018 年度活動方針

2018 年度の主な活動計画は以下の 3 点です。

(1) 公式 SNS の開設と運用

「運用ポリシー」を作成し、理事会の承認を得て、実際に運用を開始します。運用開始後には、フォロワーの特徴や、投稿別の反響などを分析して、運用の改善を図ります。

(2) 委員会のガバナンス強化と CIEC 内連携

専門性を重視した委員改選を行い、役割分担を明確にします。また、各委員会・部会・支部のウェブ担当者との連携も継続・強化し、円滑に情報共有が行われる活動的な組織を目指します。

(3) サイトコンテンツの定期更新

PC カンファレンス 2018 終了後のアーカイブ追加、会誌・Newsletter 発行後のサイト掲載を速やかに実施します。Special 記事では、特に団体会員へのインタビュー記事を重視し、積極的に取材を行います。

国際活動委員会**1. 2017年度活動報告**

2017年度活動方針に基づき実施した研究会・海外視察の企画等の概要を、以下順次に記します。

(1) 2017PCカンファレンス【セミナー1 (Part1・Part2)】

テーマ：創造のためのコンピューテーショナルシンキングー問題発見から問題解決へ導く力を育むー

日時：2017年8月7日(月) Part1：12：00-13：30 Part2：13：45-15：15

会場：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス Ω (オメガ) 館 11

講師：セミナー1 (Part1)

CIEC 韓国視察報告

橘 孝博 早稲田大学・高等学院教諭/大学院教育学研究科客員教授

パネリスト

Kim, HanSung (キム ハンソン) KERIS (韓国教育学術情報院) 研究員

小野田 哲也 マイクロソフト業務執行役員 文教本部長

山名 早人 早稲田大学基幹理工学部 教授

司会

興治 文子 新潟大学教育学部 准教授

セミナー1 (Part2)

パネリスト

小松 一智 都立石神井高等学校 教諭

竹野 英敏 広島工業大学情報学部 教授

鹿野 利春 国立教育政策研究所教育課程調査官

司会

平田 義隆 京都女子中学校・高等学校 教諭

参加者数：80人

趣旨：

2016年12月に行われた第109回中央教育審議会において、2020年度から始まる予定の次期学習指導要領の答申が示された。答申では、プログラミング教育を「将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる『プログラミング的思考』などを育むもの」としている。また、その中で「プログラミング的思考」とは、「自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力」と定義している。しかしながら、より創造的な活動を行うためには「動きの組み合わせや記号の対応」といった思考の前に、自分が意図する一連の活動を定式化し問題解決のための手順となるように意識する力を持つことが必要となる。このセミナーでは「Computational Thinking」をそのような意識を持つために必要な力として捉え、問題発見から問題解決へ導く力を育む教育とはどのようなものかについて考えていきたい。

前半のPart1では、韓国でのプログラミング教育の事情と企業が求めるスキルについて話題提供していただき、後半のPart2では、小・中・高での発達段階に適したプログラミング教育が実施されていく中で、技術・家庭科や情報科だけでなく、教科で展開できる「Computational Thinking」にフォーカスして議論を深めていきたい。

なお、本セミナーはCIEC小中高部会との共催である。

(2) CIEC 第116回研究会

テーマ：国際比較研究から見たアクティブ・ラーニング

日時：2018年6月16日(土) 13時～16時

会場：青山学院大学 青山キャンパス 第16会議室

東京都渋谷区渋谷4丁目4-25

演題：講演：物理教育におけるアクティブ・ラーニングとは？～国際比較研究を基に～

ワークショップ：クリッカーを取り入れたアクティブ・ラーニング型授業

講師：土佐幸子 (新潟大学 教育学部 教授)

参加者数：20人 (予定) 開催後に人数を記載

委員会担当者名：大岩幸太郎

概要：

周知の通り、今回テーマとする「アクティブ・ラーニング」は2012年中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」において取り上げられ、学修者の主体的・能動的な学修への参加を取り入れるための授業法として大学教育のみならず、高等学校をはじめとする初等中等教育において多くの取り組みが報告されています。その一方で、2017年3月に「幼小中の学習指導要領等の改訂告示」が公示され、

続いて9月に「新しい学習指導要領の考え方」が説明資料として公開されました。

そこには、「アクティブ・ラーニング」の視点については「深い学び」の視点が重要であること、実際、その深まりを欠いた表面的な活動に陥ったための失敗事例の報告があることや、「活動あって学びなし」と批判される授業に陥ったり、特定の教育方法にこだわるあまり、指導の型をなぞるだけで意味のある学びにつながらない授業になったりする恐れがあることが指摘されています。

この様な点については、講師土佐先生がこれまでの国際比較教育の成果から「アクティブ・ラーニング型授業」では、「学修者が自分の中に落とし込む」さらに「あーそういうことなのか」と腑に落ちる（=深化させていく）作業プロセスが重要であることを見出し指摘されています。

そこで、本研究会では、理科教育の専門家である土佐先生をお招きし、アクティブ・ラーニングへの転換期にあたり、学修者が「なるほど」と思える仕掛けをどの様に放つべきかを中心にご講演を頂くこととなりました。

さらに、先生は米国大学で2つの博士号を取得された後、オハイオ州のライト州立大学で教鞭をとられた経歴をお持ちであり、米国大学での教授・学生のキャンパス・ライフを窺えることも期待しています。本研究会はCIEC小中校部会との共催です。

2. 2018年度活動方針

2018年度も昨年度の活動方針を引き継ぎ、次の方針に基づく活動を行います。

- (1) CIECの目指す活動にかなう国際交流シンポジウムや研究会の開催に向けた取組活動
- (2) 日本における次世代のICTを活用した教育を構築することを目的とした、諸外国における教育動向の情報収集ならびに調査研究
- (3) 会員の海外における情報収集の機会を支援するための支援環境構築に向けた立案企画
- (4) その他、本委員会の目標を達成するための事業の推進

研究委員会

1. 2017年度活動報告

今年度実施されたCIEC研究会（第113回～第116回）について、計画状況、実施などについて確認し、HPにて告知をおこなった。

また、「CIEC春季研究会2018」を実施し「CIEC研究会報告集Vol.9」（査読付き）を発行した。詳細は以下の通りである。

CIEC春季研究会2018

日時 2018年3月24日（土）

会場 東京工業大学キャンパスイノベーションセンター東京（参加者数 40名）

継続的に開催している研究会企画として「CIEC春季研究会2017」を実施した。熊坂会長に参加いただき、よい議論の場にしようとの挨拶のもと、研究会終了まで参加者が席をたつことなく積極的な質疑応答が行われた。研究会の成果を踏まえ次なるステップとして、コンピュータ&エデュケーションへの投稿を促した。

本研究会へは合計12本の投稿があり査読の結果、実践論文2編、萌芽論文8編、研究速報1合計117編を掲載した「CIEC研究会報告集Vol.8」（査読付き）を発行した。

カテゴリー別の発表題目（著者）は、下記のとおりである。

本研究会では採択された次の11報の発表が行われました。

<実践論文>

・Web地図を用いた位置情報教育 —アクティブ・ラーニングを实践しながら「まちづくりマップ」を改良する— 笹谷 康之（立命館大学理工学部環境システム工学科）

・クラウドを活用した手書きレポート格納返却システムの開発 松本 多恵（島根大学研究・学術情報機構総合情報処理センター）

<萌芽論文>

・高等学校における知的財産教育の学習カリキュラムの開発 —教科「情報」における学習内容に適應して— 阿濱 志保里（山口県立大学高等教育センター）

・ビジュアルプログラミング学習システム 仁科 智晴（金沢工業大学情報フロンティア学部メディア情報学科） 他2名

・双方向コミュニケーションシステムのビジュアル化 山口 貴大（金沢工業大学情報フロンティア学部メディア情報学科）

・MS-Wordに統合化した英語読解力教材作成支援ツールの開発

— テキスト解析機能と教材用テキスト収集機能について — 松尾 かな子（熊本高等専門学校・熊本キャ

ンパス 共通教育科)

- ・情報リテラシー教育におけるクラウドサービスを利用した協同学習の実践と効果 鈴木 大助（北陸大学 経済経営学部 マネジメント学科）
 - ・動画作成色彩学習システム 内嶋 遼（金沢工業大学 情報フロンティア学部 メディア情報学科）
 - ・色彩分析機能を持つ色彩学習システム 石川 智久（金沢工業大学情報 フロンティア学部 メディア情報学科）
 - ・双方向授業システムにおける学生の特定機能 吉川 桂太郎（金沢工業大学大学院 工学研究科 システム設計工学専攻）
- <研究速報>
- ・BBC micro:bit を用いた子どもむけプログラミング教材の試作 山川 広人（千歳科学技術大学 理工学部）

2. 2018年度活動方針

CIECで実施される研究会の実施案などを承認し、Web 広報を担当する。昨年同様、他学会との共催や連携も積極的に行い参加者数の増加や新たな会員獲得に貢献していくものとする。また、支部の企画として実施されてきた研究会についても、CIEC研究会として一元化しCIEC研究会の開催回数名の元でデータベース化し、広く会員に参加を呼びかけていく。

CIEC 春季研究会について、より広く報告者を募るために新たな形も含めて検討したうえで継続して実施する。

小中高部会

1. 2017年度活動報告

(1) 2017PCカンファレンス(SFC)において、国際活動委員会と連携し、セミナー1 Part2を担当
テーマ：「創造のためのコンピューショナルシンキング

－問題発見から問題解決へ導く力を育む－

趣旨：問題発見から問題解決へ導く力を育む教育とはどのようなものかについて考える。

Part2では、小中高の教科で展開できる「Computational Thinking」について議論する。

Part2 パネリスト 小松 一智（都立石神井高校）

竹野 英敏（広島工業大学）

鹿野 利春（文部科学省）

(2) 研究会（小中高部会主催2回、協力1回実施）

・CIEC第113回研究会

学びのコミュニティの場：ラーニング・コモンズ

～ アクティブ・ラーニングを支援する学びの空間づくり ～

開催日 2017年10月22日(日) 13:00 - 16:00

会場 京都女子大学新図書館

京都府京都市東山区今熊野北日吉町35

・CIEC第114回研究会

プログラミング的思考をどのように育むか

～ 育むべきスキルは何か・教員に求められるスキルは何か ～

開催日 2018年3月04日(日) 13:00 - 17:00

会場 早稲田大学3号館202教室 (CTLT Classroom2)

東京都新宿区戸塚町1丁目104

・CIEC第115回研究会

AI × 教育が創る新しい学びの空間

～ コグニティブ・サービスの応用と学習分析ツールとしての機械学習の活用～

開催日 2018年6月10日(日) 12:30 - 15:30

会場 日本マイクロソフト

東京都港区港南 2-16-3 品川グランドセントラルタワー

(3) その他

・PCカンファレンス北海道 協力

日 時 2017年10月28日(土)、29日(日)
会 場 室蘭工業大学

・第116回研究会 協力

日 時 2018年6月16日(土) 13:00 - 16:00
会 場 青山学院大学 青山キャンパス

2. 2018年度活動方針

・新学習指導要領における情報教育

小学校から始まるプログラミング的思考を育む教育と情報科で展開される新しいカリキュラムに関して実践的研究を共有し、自発的な学びを誘発する授業方法等について探求する。

・コンピュータ・サイエンスとSTEAM(STEM+Art)教育

小中高部会では、2016年度よりコンピューショナル・シンキングからのアプローチでプログラミング的思考にフォーカスしてきた。2018年度は、他の部会と連携し、プログラミング的思考を各教科に落とし込める論理思考を育むプログラミング教育について検討する。

・学びの空間とICT

東ロボくんのプロジェクトで話題となったReading Skill Testの結果や新しい入試制度など、児童・生徒・学生がそれぞれの学齢で備えるべき能力とは何かが問われている。

学習分析や学習方略の視点から、ひとり一人に適した学習をどのように教室空間に築き、読解力など現在問題になっている力を育むか、また、新入試制度はどのような変化をもたらすか検討する。

具体的な活動

- (1) 研究会の実施（内容は未定だが、3回、東京だけでなく他道府県でも開催を検討）
- (2) 世話人会の実施（年3回、関東・関西で開催予定）
- (3) 2018PCカンファレンス（熊本大学）への参加・協力
- (4) 北海道地区において、PCカンファレンス北海道などに参加・協力・学習会の実施
- (5) 国際活動委員会との連携
- (6) 研究委員会との連携
- (7) プロジェクトへの協力

外国語教育研究部会

1. 2017年度活動報告

■ 概要

2017年度は、第12回学習会として昨年度から引き続き、「Swift 言語によるプログラミング入門 - Swift Playgrounds を用いた教材作成」の3回シリーズの最終回を、また、第13回学習会では、新企画として、「動画コンテンツ時代の外国語教育 ～動画を教材としてどう活用するか」をテーマに、合計2回の学習会を行いました。

第12回は、2017年11月26日(日)、大学生協杉並会館で有限会社「快技庵」代表、高橋政明氏、部会世話人から立命館大学、木村修平氏を講師に迎え、前回の学習内容を発展させ、上級グループと中級グループの2部に分かれて実施しました。上級グループでは、前回ワークショップの続編として「コードを学ぼう3」の内容を使った上級者向けワークショップを、中級グループでは、「学校現場におけるICT活用や情報教育の問題点」、「学校現場における情報教育のおかれている現状」、「将来における情報教育、プログラミング教育の課題」等について意見交流を行いました。

第13回は、2018年5月20日(日)立命館大学大阪いばらきキャンパスで、NPO法人「eboard」代表、中村孝一氏、部会世話人から立命館大学、木村修平氏を講師として実施しました。まず、セミナー形式で、動画教材のタイプ別（①スライド解説型、②先生登場型、③アニメーション型等）特徴の理解、それぞれのタイプ別の動画教材の具体的活用例、ウェブ上での検索、収集方法を学びました。次に、参加者自身による発展的な学習実践として、簡単な操作で動画教材が作成できるアプリケーションを用いての体験学習を行いました。

■ 詳細

まず、第1回目の学習会では、前回の学習内容を発展させ、上級グループと中級グループの2部に分かれて実施しました。

上級グループでは、前回（第11回）に引き続き、Swift 言語およびプログラミング学習ツールとしての

Swift Playgrounds に関する解説書を出版されている専門家の高橋政明氏を講師に迎え、前回ワークショップの続編として「コードを学ぼう3」の内容を使った上級者向けワークショップが実施されました。冒頭、高橋氏より今回ワークショップ全体のスケジュール説明と自己紹介ならびに自著新刊電子書籍の紹介がなされた後、以下の講演・体験学習が前半、後半に分けて行われました。

前半では、Swift Playgrounds の教材コンテンツ「コードを学ぼう3」の構成の概要及び、具体的な学習項目が説明されました。学習項目としては、(1) グラフィックと座標、(2) タッチ操作とイベント、(3) 文字列データと配列、(4) イベントハンドラの4点が挙げられました。後半では、第1部で学習した「コードを学ぼう3」のレッスン内容を総括した上で、Swift Playgrounds の上級学習者が本格的な Swift 言語プログラミング技法の習得に進む段階で注意すべき点、参考になる書物などが紹介されました。最後にまとめとして、Swift Playgrounds アプリそのものは、プログラミング学習の出発点として有用であり、特に学習者が単機能的なアプリを作るための工程、予備知識を必要とせずコード学習に集中できる利点があることが示されました。

中級グループでは、前回に引き続き、世話人の木村修平氏を講師としました。中級者向けは、初級コースの「コードを学ぼう1」が理解できていることを前提とし募集しましたが、参加者のレベルが非常に高く、ほぼ中級内容は、理解できている現状でした。そこで、急遽、内容を変更し、「日本と海外のIT事情」、「学校現場におけるICT活用や情報教育の問題点」、「学校現場における情報教育のおかれている現状」、「将来における情報教育、プログラミング教育の課題」、「ITリテラシー教育の現状と方向性」等について話し合を行いました。学習会の進め方は、講師からの講話、現在の情報教育やICTの活用状況や活用方法についての説明を受けながら、受講者全員と講師によって情報交換や課題解決への提案等がセッション形式でなされました。参加者の感想からは、「様々な話題の提供があり、非常に興味深く学べた。」、「教育における問題点について、国際的な視点から話を聞くことができ、外国語教育のイメージが変わった。」などの意見を聞くことができました。

次に、2017年度第2回目として、第13回学習会では、まず、セミナー形式の講演がありました。その中では、インターネット上における動画メディアの教育利用に関するサービスの発展過程と展望についての紹介が、具体例を交えながらなされました。さらに、現在、ネット上で公開されている教育向け動画コンテンツには大別して①撮影動画②キャプチャ動画③アニメーション④エデュチューバーの4種類が考えられることが挙げられ、その具体的な説明がなされました。講演の最後に、edXという米国Harvard-MITのMOOC系教材配信プロジェクトにおけるコンテンツ視聴分析の結果として、(a)動画の再生時間は6分以内に短く(b)プロ的なデザインより手作りで親近感の持てるデザインの方が望ましい(c)講師は早口でスピード感、高揚感のある説明を行った方が閲覧頻度が高くなる、などの研究報告が紹介されました。

ワークショップ1では、初めに、講師からNPO法人eboardの活動の趣旨と内容の紹介がありました。eboardの活動目的は「学びをあきらめない社会」を実現することで、様々な理由で学習することを諦めている生徒に「いかにして学べばよいか」という示唆を与え、再び自ら学ぼうとする生徒のモチベーションを高めるためのICT活用教材をクラウド上で開発・運用しているということでした。動画教材を実際制作する前に、同教材を活用するに当たっての注意事項が説明されました。すなわち、(1)動画を見ること自体が教材利用の目的にならないこと、(2)動画の「外」に関連した教材、問題などを見る動機付けができること、(3)動画以外の学習方法(生徒の適性に合わせて冊子体教材やテキスト内容の解題をスライドにしたものを併用する学習など)を提示すること、の3点です。

ワークショップ2では、今回の学習会のメインテーマである動画教材の制作と活用方法に関する具体的な手続きの説明、体験学習と作品発表を行いました。初めに、教材の範疇を①撮影型、②スライド解説型、③白板キャプチャ型の3つに分けて、それぞれの長所と短所の説明がありました。今回のワークショップでは、③白板キャプチャ型教材を作るという前提で、参加者が、個々に簡単な教材を試作して、発表していくという形で進んでいきました。参加者は、ワークショップ実施中に作成した動画教材が発表し、これまでに作成して持参したユニークな動画教材を発表したり、それらをネットで共有したりしながら、意見交換などが活発に行われました。

生協職員部会

1. 2017年度活動報告

(1) 研究会/企画

8月/PCカンファレンスセミナー3

テーマ「アクションラーニングの場としての生協を考える」

パネリスト

越塚 温美 新潟大学法学部4年生協サポートセンターコアメンバー

東浦 祐太 鹿児島大学生協同組合

山内 一貴 東京大学農学部4年生協新学期コアメンバー

司会 北村 士朗 熊本大学 教授システム学研究センター, CIEC 副会長理事

「アクションラーニングの場としての生協を考える」と題し、大学生協を学びの場として捉え、サービスを受ける側だった立場から提供する側、または指導される側から指導する側など立場が変わることによる気づきとそこでの成長を事例から汲み取り、より良い学びの場として何をすべきかを考えるセミナーとしました。

3名の学生・生協職員の報告を受け、大学生協は実践をし、気づきを経験し、その振り返りをする経験学習向けの場であり、周りの支援も含め、個人の成長を促すことが出来る場であるという認識を共有することができました。

(2) 世話人会（関東世話人会計3回実施）

2017/7/8（関東・杉並） PCカンファレンス2017 セミナー打ち合わせ

2017/8/5（大阪大） PCカンファレンス2017 セミナー登壇者打ち合わせ

2018/2/22（関東・杉並） PCカンファレンス2018 打ち合わせ

2. 2018年度活動方針

1) 学生同士の学び合いや経験を継承する場としてのパソコン講座の研究。現状と変化について継続的調査を行う。

2) 大学入試改革や電子教科書の普及など間近に控える大学を取り巻く環境の変容について知り、大学生になる高校生がこれからどのようなICT教育を受けて大学入学してくるのか調査・報告を行い、どのような学修環境支援を目指していくべきか研究する。

3) 上記、1, 2の活動を通じて生協職員のCIEC会員の増加につとめる。

オープン・エデュケーション研究部会

1. 2018年度活動方針

○部会の目的：

オープン・エデュケーションの現状・未来の教育と学びのゴールを設定し、可能性と課題について、CIECからの提言・広報を進めていくことを提案する。学習資源・学習のツール・実践活動公開を中心に、フォーラム、ワークショップを行う。CIECの他の研究部会との共同活動は勿論のこと、学習資源に関わりの多い図書館、国内外の学術情報ネットワークおよび関連企業との協力体制を構築する。

2018年度は、シンポジウム、学習ツールのセミナー、活用事例紹介を中心とした研究会、リソース制作を評価するワークショップ、他の部会と共同しての北米（ワシントン DC）へのオープン・エデュケーション視察ツアーを企画する

(1) 2017PCカンファレンスでの「シンポジウム」の実施

テーマ「オープン・エデュケーションの挑戦-MERLOTとの協働そしてCIEC活動のさらなる活性化へ」

パネリスト：Dr. Gerard L. Hanley (Executive Director, MELROT CSU Office of the Chancellor)

重田勝介（北海道大学）

尾崎拓郎（大阪教育大学）

武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）

コーディネータ：吉田晴世（大阪教育大学）

(2) 2017PCカンファレンスでの「セミナー」の実施

テーマ「MERLOTアンバサダーになろう」

講師：Dr. Gerard L. Hanley (Executive Director, MELROT CSU Office of the Chancellor)

コーディネータ：吉田晴世（大阪教育大学） 武沢護（早稲田大学大学院・高等学院）

(3) 研究会の実施

○テーマ：オープン・エデュケーションの挑戦-CIEC活動のさらなる活性化へ

開催時期：2018年12月頃

会場：東京

(4) ワークショップの実施

○内容：オープンエデュケイショナルリソース制作と評価

開催時期：2019年3月頃

会場：東京（早稲田大学）

開催時期：2019年6月頃

会場：大阪または北海道

(5) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し、情報発信する。

(6) その他

国内外の図書館、ラーニングコモンズの視察を通じてのオープン・エデュケーションに関する調査研究活動を行う。

北海道支部

1. 2017年度活動報告

(1) PCカンファレンス北海道2017の開催

開催日：2017年10月28日(土)、29日(日)

会場：室蘭工業大学（実行委員長 桑田喜隆）

主催：PCカンファレンス北海道2017実行委員会

共催：CIBC（コンピュータ利用教育学会）、全国大学生協連合会北海道ブロック

後援：室蘭工業大学、北海道教育委員会、室蘭市教育委員会、室蘭工業大学生協同組合

開催テーマ：学習支援システムと教育の国際化

概要：特別講演では、「LMSを使った足場かけを通じた協同学習」と題し、室蘭工業大学のハグリー・エリック氏より、また「高大接続におけるICTを利用したグローバル人材育成教育」と題し、札幌国際大学の川名典人氏よりご講演いただきました。

ワークショップでは、「プログラミングってなんだ？ -Swift Playgroundsで学ぶプログラミングははじめの一步」と題して北海道大学の田邊鉄氏により開催されました。最も参加してもらいたかった室蘭市内の小中学校の先生の参加もあり大いに盛り上がりしました。

分科会では、道外（7件）を含め17件の発表がありました。発表テーマは、実践に基づくもの、萌芽的研究、北海道の地域特性を生かした実践報告等多岐に渡っており、有意義な研究交流の場となりました。

特別講演と分科会の一部は、日経BP社「ITpro Report」において、レポート記事が紹介されました。

参加者数：約70名

(2) 支部研究会の開催

開催日：2018年6月30日（土）13:00-15:00

会場：北翔大学北方圏学術情報センターPORTO

講師：紺谷正樹氏（月形町立月形中学校技術科教諭）、佐藤祈氏（岩見沢市立北真小学校教頭）

演題：小中高プログラミング教育必修化の流れをどう考えるか（仮題）

主催：CIBC（コンピュータ利用教育学会）北海道支部

概要：今回の研究会は、PCカンファレンス北海道2018の学習会としての位置付けを持つも、従来から生徒全員に実施している中学校におけるプログラミング教育の実践事例と、さまざまな学習活動が想定されている小学校での展望を紹介していただき、プログラミング教育の現状と課題などを幅広い視点で議論する予定です。（2018年6月8日現在）

(3) 大学入学生を対象にしたコンピュータに関する調査

北海道内8大学、1000名超のデータを継続的に収集しフィードバックを行っており、情報教育担当者の共通基盤として有効活動されています

2. 2018年度活動方針

(1) PCカンファレンス北海道2018の開催

11月3日（土）、4日（日）に、北翔大学北方圏学術情報センターPORTO（ポルト）を会場に開催することが決定しています。

(2) 支部研究会の開催

時期、会場は未定ですが、研究会の開催を予定しています。

(3) 学校の玉手箱シリーズの開催

学会員以外も気軽に参加しやすい会場での開催を予定しています。

(4) 引き続き北海道の大学1年生を対象にした調査を実施します。

九州支部

1. 2017年度活動報告

2017年度の九州PCカンファレンスは、10月28、29日に北九州市立大学北方キャンパスで、テーマを「九州からはじまる新しいカタチ ～地域・環境・グローバルの視点から～」として、約150名の参加を得て開催された。初日の基調講演I「公（パブリック）と私（プライベート）」では、地元で起業を支援するユニーク

な活動をされている岡秀樹氏を講師にお招きした。つづいて、シンポジウム「電子教科書を活用した授業から考える学生の学び方の将来性」では、パネリストとして学生も加わり、電子書籍を活用した学生の新しい学び方の可能性が議論された。分科会（二日目）は4つに分かれ、分科会A、Bでは九州の大学より10本の発表があった。分科会「地域創生 x IT」では、北九州市立大学の地域創生学群・国際環境工学部と北九州工業高等専門学校とのプロジェクト活動の成果として5本の発表があった。地域での日頃の活動の成果が発揮された分科会となった。分科会「ポスト『PC講座』を考える」では、CIEC九州支部「情報生活サポート研究会」の主催で、九州ブロック8生協でのPC講座のキャンセル理由の調査を元に、現在のPC講座の枠組みにとらわれない組合員のPC活用の将来像が議論された。二日目の最後の基調講演II「英語と日本人：これまでとこれから」では、北九州市立大学生協の伊藤理事長が講演され、これからの英語学習の在り方を考える場となった。九州PCカンファレンスは、大学生協の教職員活動の中から生まれ、大学生協の支援を受けて維持され、発展してきたが、今回はITフェア（初日）に39社もの出展があった。

2. 2018年度活動方針

九州ではPCカンファレンスを、ICT教育や情報化社会について学ぶ場としてだけでなく、語学教育、協同組合活動、平和、地域の学校教育など、さまざまな学びの場と捉えている。2018年度は、8月に全国版のPCカンファレンスが開催されるため、九州PCカンファレンスはお休みとなるが、8月のカンファレンスに積極的に参加し、日頃の活動の成果を発揮したい。

情報生活サポート研究会のICTを活用した学生の学びと生活へのサポートをテーマとして研究活動で、教員、生協職員、学生の協同の中での新しい時代における大学生協の役割が見えてきているところであり、今後もこの活動を推進する。その他の支部活動についても、九州PCカンファレンスなどの会員交流機会を活かして模索することを継続する。

MERLOT ワーキンググループ

1. 2017年度活動報告

「ワーキンググループの組織化とその活動の活発化」

メーリングリスト活用などによる情報交換ならびにそのメンバーによるコンテンツの提供を実施する。

(1) 2017PCカンファレンスでの「セミナー」の実施

テーマ「オープンエデュケーションリソースと著作権について

-MERLOT コンテンツを充実させるために-

パネリスト：重田勝介（北海道大学 情報基盤センター）

中野淳（日経BP社教育とICT Online）

モデレーター：武沢護

(2) ワークショップの企画・運営

○第3回 MERLOT 夏季ワークショップ（関東地区）

日時：2017年9月3日（日）、会場：早稲田大学早稲田キャンパス（14号館）

講師：Gerard L. Hanley 氏

○第4回 MERLOT 夏季ワークショップ（関西地区）

日時：2017年9月4日（月）、会場：大阪教育大学天王寺キャンパス

講師：Gerard L. Hanley 氏

○北海道PCCでのワークショップを計画中

(3) 広報活動

広報・ウェブ委員会の協力を得てCIECホームページを積極的に活用し、情報発信を行った。

(4) その他

各WGメンバーが国内外において積極的な情報収集や視察を行い、情報交換した。

2017年7月

- 01日(土) 2017年度一般社団法人COEC 定時社員総会 開催公示
18日(火) 監事会(大学生協杉並会館)

2017年8月

- 04日(金) PCC 第4回実行委員会(慶應大学湘南藤沢キャンパス)
第5回理事会(慶應大学湘南藤沢キャンパス)
05日(土) 2017PCカンファレンス(慶應大学湘南藤沢キャンパス)
テーマ「創造する学び-アクティブ・ラーニング2.0-」
06日(日) 2017PCカンファレンス(慶應大学湘南藤沢キャンパス)
2017年度一般社団法人CIEC 定時社員総会
会誌編集委員会
07日(月) 2017PCカンファレンス(慶應大学湘南藤沢キャンパス)

2017年9月

- 03日(日) CIEC MERLOT ハンズオン・ワークショップ 第3回(関東地区)(早稲田大学)
MERLOT 型ラーニングコミュニティ構築のための講演会・ワークショップ
-あなたのWebコンテンツをMERLOTに-
04日(月) CIEC MERLOT ハンズオン・ワークショップ 第4回(関西地区)
(大阪教育大学天王寺キャンパス)

2017年10月

- 08日(日) 第1回三役会議(大学生協杉並会館)
14日(土) 編集委員会(大学生協杉並会館)
22日(日) CIEC 第113回研究会(小中高部会企画)(京都女子大学)
テーマ「学びのコミュニティの場:ラーニング・コモンズ ~ アクティブ・ラーニングを支援する学びの空間づくり ~」
28日(土) -29日(日)
PCカンファレンス北海道2017(室蘭工業大学)
2017九州PCカンファレンス(北九州市立大学)

2017年11月

- 11日(土) 第1回理事会(大学生協渋谷会議室)
26日(日) 第12回CIEC外国語教育研究部会(大学生協杉並会館)
テーマ「Swift言語によるプログラミング - Swift Playgrounds を用いた教材作成(中級基礎と応用)」

2017年12月

- 01日(金) 『コンピューター&エデュケーション Vol.43』発行
16日(土) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)
26日(火) 小中部会(大学生協杉並会館)

2018年01月

- 20日(土) 2018PCカンファレンス第1回実行委員会(大学生協杉並会館)
三役会議(大学生協杉並会館)

2018年02月

- 04日(日) CIEC 第114回研究会(小中高部会企画)(早稲田大学)
テーマ「「プログラミング的思考をどのように育むか ~ 育むべきスキルは何か・教員に求められるスキルは何か ~」
08日(木) 2018PCカンファレンス教育・ITフェア受付開始

20日(火) 2018PCカンファレンス イブニングセッション、分科会発表募集、団体会員発表セッション受付開始(4月15日締切)

2018年03月

10日(土) 2018PCカンファレンス第2回実行委員会(熊本大学)
 18日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)
 24日(土) CIEC春期研究会2018(東工大キャンパスイノベーションセンター)研究委員会(東工大キャンパスイノベーションセンター)
 25日(日) CIEC理事会(午前:三役会議)(大学生協杉並会館)
 広報・WEB委員会(大学生協杉並会館)

2018年04月

01日(日) 学会公募開始(4月30日締切)
 22日(日) 2018PCカンファレンス 分科会時間割編成会議(大学生協杉並会館)

2018年05月

13日(日) 会誌編集委員会(大学生協杉並会館)
 14日(月) 役員選挙公示
 20日(日) 外国語学習会(立命館大学大阪茨木キャンパス)
 30日(水) 2018PCカンファレンスリーフレット発行

2018年06月

01日(金) 『コンピューター&エデュケーション Vol.44』発行
 2018PCカンファレンス受付開始
 10日(日) CIEC第115回研究会(小中高部会主催 国際活動委員会共催)(日本マイクロソフト社)
 テーマ「AI × 教育が創る新しい学びの空間 ~コグニティブ・サービスの応用と学習分析ツールとしての機械学習の活用~」
 16日(土) CIEC第116回研究会(国際活動委員会主催 小中高部会共催)
 テーマ「国際比較研究から見たアクティブ・ラーニング」
 17日(日) CIEC理事会(午前:三役会議)(大学生協渋谷会議室)
 広報・WEB委員会(大学生協渋谷会議室)
 30日(土) 北海道支部研究会(北翔大学北方圏学術情報センター PORTO)
 テーマ「小中高プログラミング教育必修化の課題と対策」

以上